

今日は、  
芥川龍之介の「羅生門」を題材に  
葛藤について  
考えたいと思います。

## 問①

あなたが最近、  
AかBか、決めかねていること  
は何ですか？

小説には  
地の文と会話があります。

地の文には、  
物語の「語り手」が語っている  
部分が含まれます。

## 問②

あなたが

決めかねていることについて、  
「羅生門」の語り手に相談することになりました。

どんな質問をしますか？

自分が考えた質問を  
チャットに書き込んでください。

## 問③

下人も、  
羅生門の下で  
「AかBか」という  
葛藤と抱えていました。  
「A」と「B」には  
何が入るのでしょうか？

## 問④

下人は、結局、  
どちらを選びましたか？

## 問⑤

もし、  
「下人」が捕まったら  
自分の行為を  
どう正当化するでしょうか？

## 問⑥

もし、

あなたが「語り手」だったら、  
本文中のどの部分を参考にして  
返答を考えますか？

自分の次に書き込まれた質問を  
受けたとして考えてみてください！



## 問⑦

もし、  
あなたが「語り手」だったら、  
質問に対して  
どういう答えを返しますか？

# 授業デザインの意図

①「語り手」と「聞き手」の構造を中心に展開

➡時間的な制約

➡皆が知っている可能性の高い作品＝「羅生門」

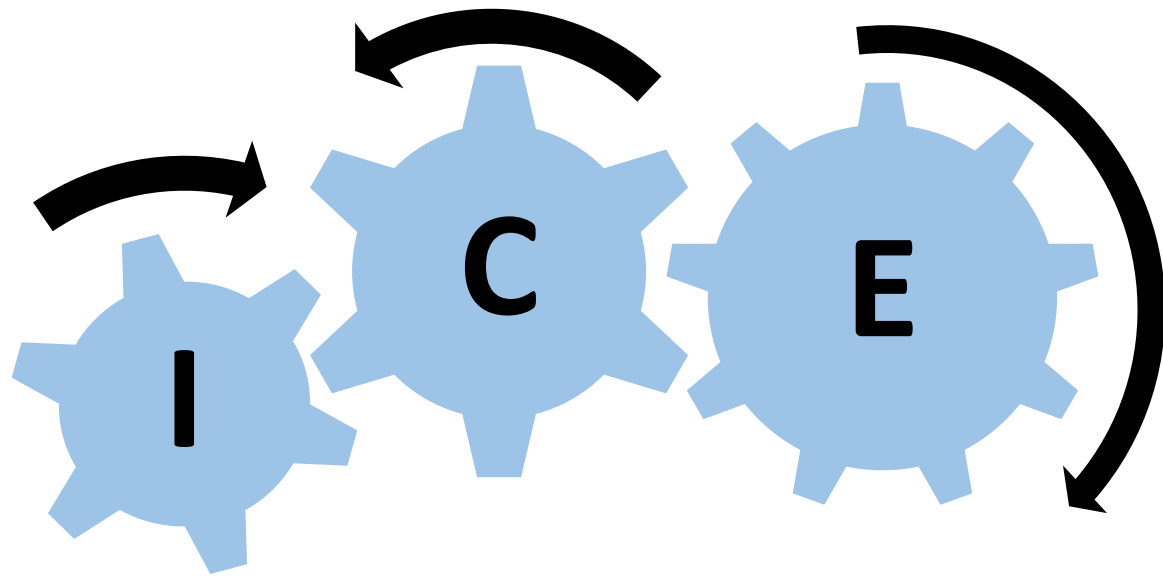
➡「読む」ための知識や技術を前提としない活動

②主体的な活動

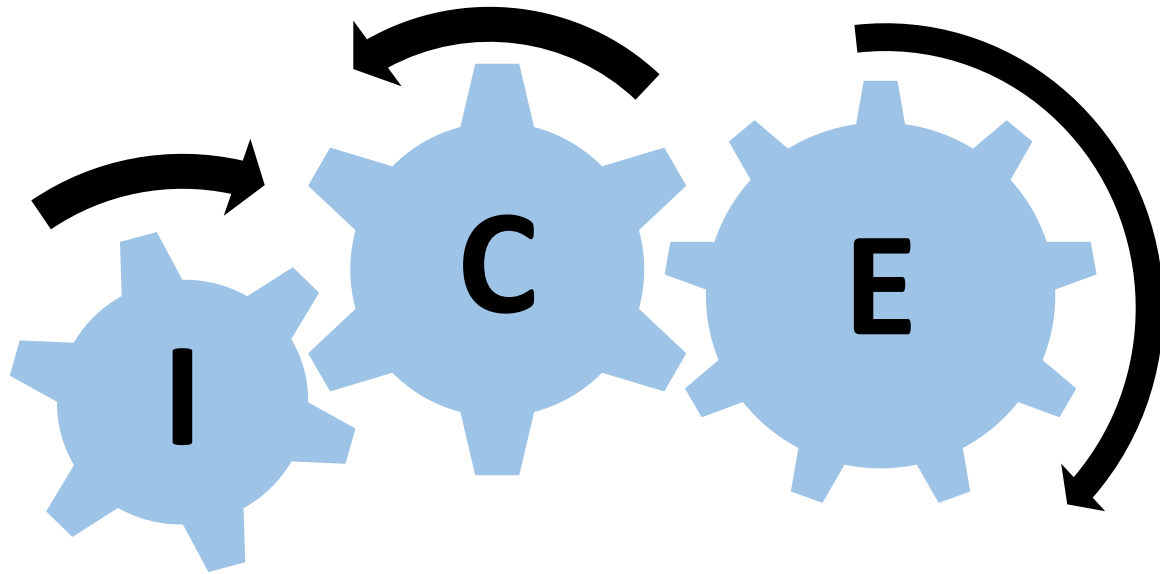
➡学習者の興味関心を軸足に展開

➡テキストと学習者の世界をつなげる活動

➡当事者性の高い問い



学びのICEモデルは、  
学びを**3つの質**に分けて捉え、  
それぞれの質に対応した  
**到達目標と問い**を明確にすることで  
「学びのコンパス」として機能する  
フレームワーク



Ideas (I) :

基礎的な知識や技術の学び

Connections (C) :

基礎的な知識や技術どうしの  
つながりを適切な問いと指導を通  
じて理解する学び

Extensions (E) :

自らの体験や生活に結び付けた  
知の応用の学び

	Ideas	Connections	Extensions
到達目標	老婆が語ったことを整理し、下人が自分の行動の正当性について語るであることを説明することができる。	他者の興味関心と「羅生門」の接点を検討することができる。	「羅生門」について語ることで、価値を生み出すことができる。
問い	<p>①あなたが最近、AかBか、決めかねていることは何ですか？</p> <p>③下人が、羅生門の下で決めかねていた、「AかB」は何？</p> <p>④下人は結局どちらを選んだ？</p> <p>⑤もし、「下人」が捕まったら自分の行為をどう正当化するだろうか？</p>	<p>⑥語り手は「羅生門」の内容を踏まえて、あなたの質問に答えようとしています。本文中のどの部分を参考にして返答を考えたと思いますか？</p>	<p>②あなたが決めかねていることについて、「羅生門」の語り手に相談することになりました。どんな質問をしますか？</p> <p>⑦もしあなたが語り手だったら、質問に対してどういう答えを返しますか？</p>